

第2回 標準委員会 発電炉専門部会
安全解析のための風洞実験分科会 議事録

1. 日時 平成13年3月9日(金) 13時30分～17時00分
2. 場所 日本原子力学会 会議室
3. 出席者(敬称略)
(出席委員) 井手(主査)、柿島(副主査)、白木(幹事)、安達、大場、佐田、鈴木、水本、村松、山澤(10名)
(欠席委員) 福田(1名)
(常時参加者) 門田、金森、矢尾板(3名)
(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

- P3SC2-1 第1回安全解析のための風洞実験分科会議事録(案)
- P3SC2-2 委員名簿(本分科会分)
- P3SC2-3 標準制定スケジュール
- P3SC2-4 「安全解析のための風洞実験分科会」における標準策定の範囲について
- P3SC2-5 風洞実験の相似則について
- P3SC2-6 「安全解析のための風洞実験実施規定(案)」の利用について
- P3SC2-7 原子力安全研究協会の報告書

参考資料

- P3SC2-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、委員11名中10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について承認された(P3SC2-1)。

2) 気象指針について

白木委員より、気象指針についての説明を行った。以下のような審議が行われた。

- ・指針は、大気安定度中立を対象に実験を行うこととなっていないが、これまでの実験の実績は中立であり、従って中立についての実験の標準化を行うこととする。
- ・なお、中立風洞実験で求めた有効放出高さを、すべての安定度の時にも適用できるかの検討は今後の課題とした。

・非中立の大気安定度については、将来的に実験よりは数値シミュレーションになる可能性が高い。

3) 標準策定の範囲について

白木幹事より、P3SC2-4により標準策定の範囲についての説明を行った。本日の審議を踏まえた修正案を白木幹事が作成することとなった。以下のような審議が行われた。

- ・標準の対象範囲としては、基準を実務的なものにする必要が有ることから、実績のあるものを基本にまとめることが重要と考へ、大気安定度は中立とすることとした。

4) 風洞実験の相似則について

佐田委員より、P3SC2-5により風洞実験の相似則についての説明を行った。以下のような審議が行われた。

- ・本資料はあまりにも学術的ということで、原子力安全研究協会の報告書には入れずに各委員に説明することで留まっているが、学会としては標準の付属書又は解説書として入れる方向で考える。
- ・相似則の説明に、エネルギーの式が含まれているので、中立、非中立状態の風洞実験との係わりを整理する必要がある。
 - ・用語について気象指針と合わせる必要がある。
- ・3項として「まとめ」があった方が良い。
- ・参考資料の内容もあった方が良いが、本文資料との重複の排除や書き方の整合を図る必要がある。

5) 原子力安全研究協会の報告書

水本委員、大場委員より、P3SC2-7により原子力安全研究協会の報告書についての説明を行った。尚、この説明に先立ち、白木幹事及び事務局より、標記報告書の利用について原子力安全研究協会の許諾を受けている旨の報告があった(P3SC2-6)。以下のような審議が行われた。

- ・平地実験という用語は気象指針には出てこない。指針と用語を合わせる必要がある。
- ・ σ_y が中立の値から外れていたり、使用風洞が異なったりしても、風洞実験で求められる有効放出高さに大きな違いが生じない理由を解説する記述があった方が良い。

6) その他

- ・事務局より、P3SC2-3により本分科会の標準原案策定スケジュール(案)の説明があり、取りあえず本スケジュール

に沿って進めることとした。

- ・次回発電炉専門部会では、分科会としての特別な報告は行わず、事務局からの状況報告に止めることとした。

6. 次回開催予定

第3回分科会を、4月19日（木）に、第4回分科会を、6月7日（木）、いずれも13時30分より開催する。

以上